

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆうらいふ
(ユニット名)	あさひ
所在地 (県・市町村名)	涌谷町
記入者名 (管理者)	佐藤 由美子
記入日	平成 20 年 7 月 8 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目  
 ↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所独自の理念を作り上げるとなると、表現が抽象化し職員をはじめ、入居者にも混乱を招く恐れがあると判断し、自分達のケアを確認しながら実施していく為に、あえて独自の理念は掲げず、理念を細分化し毎月の目標にして具体的に取り組んでいる。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		社協としての機能を活用し、各事業への参加、地区住民との交流、また、見学会(介護講座)の利用、家族からの理解を充分得られるよう季刊誌などを利用し広報に努めている
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の勉強会や研修会等にも関わり、介護保険制度や各サービス形態について出前講座を行ったりして、事業所での実践内容と経験を踏まえながら認知ケアの啓発活動に努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を打合せ時等に報告し、入居者の状態に合わせながら、改善に向けて各ユニットリーダーを中心として具体的に検討している。		全体会議での周知、徹底を図る。評価項目の要改善シートの活用など、カンファレンスなどの機会に話し合いの場を設けている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の最近の様子を含めた近況報告を行うのはもちろんであるが、そのほかに参加メンバーからの要望や意見等についても引き出し双方向的に話し合い、課題が改善出来るよう前向きに検討し取り組んでいる。	○	年間3回くらいの予定で実施していきたいと考えるが、年間を通しての具体的な計画性がないので、今後は計画を立て内容の充実を図りながら実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の中には生活保護を受給している方や、事情があり町からの依頼等で入居している方がいる事もあり、不定期ではあるが時間があいた時には、町の職員等もお茶を飲みながら、様子を見に来てくれたりしている。その際にホームの状況報告も行うなどして連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症の進行や身寄りが無い等の事情がある方について、行政や各関係機関と連携し、成年後見人制度利用を勧めた経緯があり、職員間でも学ぶ良い機会となった。加えて各種研修会等で学び、現在も知識を得る努力をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の中で、入居者の望まないケアは全て虐待にあたるという意識の統一を行っている。実質的な介護技術ケアはもちろんであるが、誘導方法や声掛け等の内面的なケアもひとつ間違えば虐待にあたるという意識を持ち取り組んでいる。		入居者本位に努め、鍵やベット柵の使用についても虐待につながるという認識を持つように努め、ケアが短絡的にならないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり説明し、認知症ケアに対する考え方と取り組み、緊急時医療連携体制の実際と個人情報の取扱いなどについて十分に時間をとり説明し、同意を頂くようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特定の入居者の意見だけが反映されないよう機会を作って話題提供している。具体的には、入浴の時間など日常生活上の意思決定について担当者が把握し本人の思いを優先するようにしたり、また、月に数日のメニューについては利用者の好みを聞き献立に取り入れて、入居者の満足度の向上に努めている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊誌等定期的に家族だけではなく、面会に訪れて頂いた親戚の方等にも郵送するようにしてスタッフ個人の意見ではなくGHゆうひとしての関わりを重視するようにしている。また、受診通院の際にも報告書等を作成し健康状態や生活の様子を報告するようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の向上の為には家族の意見が必要不可欠であるとの視点を大切にし、行事や訪問時等を含め家族に問いかけ、小さな意見でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人組織と年1回全職員の個別面談の機会を設けている他、毎月の打ち合わせ等でも職員の率直な意見を聞くよう心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調及び希望に対応出来るよう、その時々状態に応じた柔軟な勤務調整がとれるように配慮している。また、ケアの質の幅が更に向上出来る事を目指し、全職員が両ユニットの対応が可能になるように現在調整を進めている。	スタッフ全員で入居者18名を見るという姿勢を大切にしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員が継続的にケアしながら、入居者を支える体制を心掛けている。法人内の定期異動がある場合も、2ヶ月余りの引継ぎ期間を設け入居者への影響は必要最小限に留める努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質に応じて段階的に法人内外の研修に参加できる体制をとっている。また、登録職員も必要に応じて研修・会議には参加する機会を確保している。	法人全体で資質向上の委員会が組織化されていることで、年間の研修が計画・立案されている。個々人の能力や性格に合わせて管理者、主任はOJTを実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内で多くのシェアを持つ協議会へ加入し、見学を含めた学習会や職員研修に参加している。他事業所の多角的な意見を取り入れ、経験を活かしながら質の向上を目指している。また、研修会へ参加した職員は必ず復命し、良い取り組み事例はすぐに現場へ還元するように努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員同士の人間関係やストレス要因を把握するように努め、必要であれば勤務を調整し公休を優先する、事業所内での交流会を実施するなど配慮している。また、福利厚生事業など全職員を中心とした事業を実施し、他部署との交流も強めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な健康診断の実施の他、生活習慣改善フォローアップ健診を実施、保健師との個別面談や助言など協力を頂きながら健康増進に努めている。また、資格取得に向けた独自セミナー等の支援と働きかけを行い職場環境を整えている。	生活習慣改善フォローアップ健診(財団法人: 社会保険健康事業団による)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際には、必ず本人に会って心身の状態や表情から読み取れる思いを確認し、本人と向き合う事が信頼関係を構築する第一歩だと考え取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何に困り、何が必要なのかゆっくりと時間をかけて聞く事で、信頼関係を築けるように対応している。その上で本人と家族が望むケアについて確認し事業所としてどのような対応が出来るのかを理解して頂く様にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人及び家族の思いや状況を確認し、必要に応じて他のサービスの利用調整や提案を行うなど、可能な限り柔軟な対応を行うようにしている。法人内で運営している独自サービスを契約利用してもらいながら顧客満足度の向上に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所を見学して頂くなどして、実際の雰囲気を感じてもらいながら、納得と安心感がある入居につながるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	サービスを提供する側、される側の短絡的な意識を持たないようにした上で、共に支えあいながら生活をしていくという考えを職員が共有し、一人一人が役割活動を通して、主役になれるような場面作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護の専門職としての助言を含め、押し付けにならない程度で入居者の思いを情報提供する事で、家族に余裕が生まれ本来の結びつきが強くなってきている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の生活の様子をきめ細かく報告すると同時に、入居者様の自筆での手紙作成をして投函したりと、本人の意思表出が家族に直接伝わるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前と環境が極力変化しないように努め、生け花教室にも参加して頂くといった昔からの生活習慣を尊重している。また協力して頂く方々にも認知症を理解して頂く様に働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	役割活動を通して入居者の同士の支えあいを引き出し、職員が調整役になるように支援しながら注意深く見守るようにしている。皆で行なう各種レクや手先を使う作業を通して一体感が生まれるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者と共にお見舞いにとりして関係を断ち切らないように留意している。また、過去に退去された方の家族様の中にはGHの環境が好きと、遊びにきてくれたりしている。気軽にお茶のみに来れる様な環境作りに努め関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の意向を読み取ろうと関わるようにするのはもちろん、認知症により訴え・要望は日々変化している事を伝え、本人を主体として考え何が最良なのか家族を交え話あうようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査時の聞き取りを始め、入居後も本人や家族の言葉に耳を傾けながら、情報の把握と共有に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前からの習慣を含め、個人個人の生活習慣を尊重し、残存能力を維持していけるような支援を心掛けている。入居者の高齢化が進むにつれ出来る事の割合が減りつつはあるが、それぞれに出来る限りの役割活動を通して機能の維持に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人について、職員全員で状態把握が出来るように努めモニタリングやケア会議を行ないながら、その人らしさを引き出す介護計画を念頭に置き、それらに本人・家族の要望を取り入れ反映できるようにしている。		本人の現状を把握する意味でも、毎月モニタリングを実施し担当者を中心に話し合いを実施している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、入居者の状態と内容を充実させる事で、本人の変化を敏感に捉える事や気付く事ができ、プラン変更へと移行できている。		家族協力が難しく、ケア内容の状況報告や相談が充分に出来ない事も多々あり、対応に苦慮しているが、毎回のアプローチを大切に継続していきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常生活上での心身的な状態変化、気づきはもちろん、水分・食事量、排泄面など個別に必要な情報も、個別のケア記録に記入している。また、毎日ケアカンファレンスを行ない、全入居者の状態を把握した上で全職員が確認できるようにして情報の共有を徹底している。		個別の小さな変化については毎日のケアカンファレンスと引継ぎノートを利用している。毎日の細かな状況の変化や気づきを記入しながら、全入居者の把握に努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を強化し日常的な健康管理を行い、本人及び家族の負担となる受診・入院の回避を行うよう努めている。また、定期的な通院や受診などの必要な支援もある程度柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が住みなれた地域で安心して暮らしていけるように、地域の民生委員や行政区長、近隣の子供達、ボランティア等にも働きかけ協力を頂きながら支援している。		地域の民生委員、行政区長の出入りは多い。また、以前居住していた地域の民生委員や区長の来訪もある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状況と必要性に応じて、介護保険外サービス(インフォーマルサービス)を利用、または支援している。		身寄りが無い方が入院した場合などでも独自のサポートサービスを利用し本人の身の回りの支援を円滑に出来るよう配慮している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の発足により包括支援センター職員が参加する事で連携が更に強化され、情報交換を実施しながら協力体制を構築している。		今後、権利擁護や成年後見人制度が必要な入居者についても、行政や地域包括支援センターと協働できる対応が確立できている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、本人や家族が希望するかかりつけ医を基本的に家族対応で受診している。その際も、文書にて医師へ生活の様子の報告書を提出し、指示を頂きながら情報伝達を蜜にして信頼関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとりひとりの誇りやプライバシーに配慮しつつ、声掛けや援助について日常的に確認するように取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	感情の意思表示が困難な入居者に対しても時間を多くして関わる事や、複数の選択肢を設けて入居者が自由に選ぶ事ができる環境に配慮している。	毎月数回入居者が食事メニューを決定するリクエストメニューの日を取り入れ、自由に決定出来る環境作りをしている。また、外出を支援する際も馴染みの職員を個別に配置するなど入居者がそれぞれの思いを自由に表せるよう配慮している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の体調、ペースなどを尊重しそれぞれが自己決定した上で主役になれる場面づくりを心掛け柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	まず楽しんで頂く事を前提として、服装はもちろん化粧やマニキュアなど本人の好みを尊重し職員はその出来ない所を必要な時に手伝い支援するようにしている。理美容についても本人のこだわりを大切にしつつ支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った野菜と一緒に採りに行って調理したり、嚥下の面で食べられない食材を食べられるように工夫したりして視覚的にも満足して頂けるように配慮している。また、日々の献立と一緒に相談して考える他、月に数回リクエストメニューを導入し楽しんで食べて頂く事に重点を置いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的に問題が無ければ、本人の望む嗜好品については本人の状態に合わせて提供している。本人の生活リズムを把握した上で、最高のタイミングで味わえるよう時間的な支援にも配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、随時誘導しながら本人のシグナルを見落とさないように心掛けて支援している。また、皮膚トラブルも考慮しオムツを使用している方について、出来る限り外しながらパンツへと移行できるよう援助している。	おむつを止むを得ず使用する場合でも、その方の状態像を見極めた上で、その方に合う1番最適なタイプのオムツを選び使用してもらうようにしている。また、季節に応じて蒸れない様あて方を変えたり使用枚数を調節したりとの配慮も欠かさない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方に対しても十分に時間をかけて関わったり、チームプレイで対応を工夫するなどして、それぞれの入居者の希望を優先しながら安全な入浴支援を実施している。	ADLが重度化してきつつある入居者様に対しても、体調を考慮した上で、2人介助での入浴対応を実施し安全面に配慮している
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動になるべく幅を持たせて生活リズムを整えた上で、夕方からは穏やかな時間を過ごし安眠が出来るように促している。寝付けない方には一緒に話をしたり、飲み物を提供するなどゆったりとした時間提供にも配慮している。また、開所当時からの方針で眠剤を服用している方も出来る限り減らしていく事を心掛け職員間で統一している。	現在は眠剤や安定剤を服用している方はいない。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた仕事や年間の行事を通じて、それぞれの入居者様に得意分野での経験や知識を活かしながら活躍する場面設定を多く設けるようにしてコミュニケーションを図りながら実践している。またそれらを終えた際には必ず感謝の言葉を口に出して言うように心掛け直接伝わる反応を確認し今後活かすようにしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には、家族の理解のもと小額ではあるがお金を所持している方もいる。社会生活とお金のつながりにおいて、過去の記憶を呼び覚ます効果もある為、良い刺激の提供という意味においてトラブルにつながらないよう気をつけながら見守りしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の要望に応じて外気に触れ気分転換を図る意味で、日常的に買い物やドライブなどの個別外出を実施している。時に大勢での外出も良い刺激となり得る為、その時々状態に応じて出掛けている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所でも近隣であれば可能な限り対応している。ただ旅行や外泊など遠距離に及ぶ場合については家族の協力を頂きながら、事業所はそれをサポートする形で支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重しつつ代筆や電話の交換を行い随時支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の対応はいつでも可能にし、また希望であれば宿泊の要望にも応えられるよう準備している。面会があった際には、本人や家族の希望に応じて、居室や和室などで湯茶を提供しゆったりとした時間を過ごして頂く様に支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部で開催させる身体拘束関係の研修会へ参加することをはじめ、身体拘束はあってはならない事だと全職員が認識できている。		施設全体で身体拘束廃止ガイドラインを作成し定めている。また、毎月の会議などで確認するよう努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	厳密に言えば鍵をかける事自体が身体拘束になるという事や鍵をかける事で入居者自身に及ぶ弊害を全職員が認識しており、ロックよりも本人の思いに沿ったケアを優先するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は他の作業をしている時でも、さりげなく入居者の状況を把握するように努め、過度に監視しすぎないように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時々の入居者の状態に合わせ、入居者の気持ちに沿って考え、職員で共に考えながら最良の方法を導くようにしている。危険物品や危険が予想される物品なども収納に工夫するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人独自のヒヤリハット様式を用いて記録する事で職員間で共有する事を前提として、必要に応じて法人上層部にも回覧し、日々の危機管理を強めている。1月後に再度評価する事を導入し、同様の危険が起きないよう安全に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を頂くなどして定期的に研修会を実施し救命救急法の技術向上に努めている。		2年に1回 普通救命の講習更新 実績:全職員済み
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回災害を想定した実践的な訓練を実施している。また、地域にも運営推進会議などで広く協力を頂ける様に働きかけている。		防災グッズ、非常食の準備完了。夜間想定訓練実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日常生活上で起こりうる事故や予測されるリスクについて、随時家族へ説明すると共に、加えて自由にゆったりと生活して頂く事を前提とした事業所の方針と取り組みについて理解を得られるように努めている。		介護計画を説明する際など、本人の現在の状態をご家族に正確に伝わるよう配慮している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を実施すると共に、個々の普段の体調、食欲、様子などの些細な変化を気をつけて記録・観察するようにしている。また、それらを発見した際には職員間で情報共有し、早期対応を可能にしている。結果も必ず家族へ連絡し、家族にも安心感を提供できる配慮をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に整理し、内服の内容や副作用について職員が把握できるようにしている。追加薬があった時や不明な点はそのままにせず必ず看護師と相談する等して本人の状態変化にあわせた対応が出来るようにして連携を強めている。		管理・準備は担当性にした上で、事前に家族へ連絡し本人の状態を説明した上で薬の手配や受診を依頼するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日乳製品や繊維質の多い食材を取り入れたり、体を動かす機会を適度に設けるなどして便秘の予防に取り組み、あくまでも自然排便ができる環境を目指している。職員間ではすぐに薬を使用したりするなど短絡的な方法をとらないよう意識の統一を図り、本人のサインを注意深く見守っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、困難な方には本人が持っている残存能力を活用しながら支援を行っている。また、法人で歯科医院と契約し定期健診を実施するなどして口腔内の生活保持に向けて取り組んでいる。		今年度検診実施済み。口腔内衛生についてレベルを分け、早急な処置が必要な方に対しては、継続して訪問歯科診療を実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分量を記録につけ把握する事はもちろん、写真を記録するなどして職員間で情報を共有している。毎月のメニューも定期的に管理栄養士に確認して頂き専門的な見地から助言をもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の事業所と協働して感染症委員会を立ち上げ、その季節に多く起こりうる食中毒や感染症について随時研修会などを実施している。また、細やかなマニュアルを作成、定期的に見直し更新するなど予防を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の清掃を含め定期的に漂白し清潔を心掛けている。食材についても1日置きに契約業者が配達してもらっているが、生鮮食品などについては必ず入居者と共に買い物に行くようにして買いだめをしないようにしている。食材の保管方法や器具の清掃状況等も定期的に管理栄養士に確認してもらい問題がないよう配慮している。		予防に観点を置いた研修会を実施済み。管理栄養士のぬきうち監査
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	定期的に入居者様に花を活けてもらったり、玄関先やアプローチにプランターを置いたりして明るい雰囲気と季節感を心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が居心地よく過ごせるように季節に応じた飾り付けを入居者と共に作成している。視覚をはじめ五感などの感覚的にも適度な刺激と生活感を組み込みながら日常的に暮らしの場を整えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの中にある程度死角になるちょっとしたスペースを設け、独りになることでほっとするような居心地の良い居場所を確保している。その際に職員が必要以上に介入しすぎないように気をつけ、入居者のストレスの緩和に配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	移り住みなど環境の変化による不安や影響を最小限に抑えるため、入居時は特に馴染みの物を持参して頂くように本人や家族に働きかけている。家具の配置にも気を配り住み慣れた自宅の部屋の縮図に近づくように心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室共にこまめに空気の入替えをして悪臭と感染症の防止に努めている。空調の温度管理については、個々の入居者の状態を見守りながら調節している。		冬期間においては、温度、湿度共に標準値を維持できるよう各居室に温湿度計を配置して随時確認し、入居者の体調管理に努めている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間において転倒の危険性を予測し必要であれば改善して取り組んでいる。その際に、殺風景になりすぎたり行動の抑制につながらないよう、本人の活動を重視しながらバランスを考えて実践している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できない事を見極め、対象の入居者について職員間で何度も検討し、可能な限り出来る状態に引き戻せるよう取り組んでいる。本人の混乱や失敗を考慮しつつ、まずやってみる気持ちを大切にしている。		出来ない事を問題として取り上げるのではなく、出来る事を前向きに見極め、限りなく維持していけるよう努める事が認知症ケアにあると全職員に徹底している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者が自由に出入りして花を眺めたり、草取りをしたり、畑を見に行ったりと自分で決定し選び、行動できる環境を大切にしている。要所に休憩スペースを作りつつ、見守りが過度になりすぎないように気をつけている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者福祉複合施設という特性と地域性もあり、民生委員や行政区長をはじめ、一般客の出入りがとても多く、単独のグループホームよりもその点が大変恵まれている。それらの利点を多いに活用し日々のケアに取り入れる事を意識しながら、子供達を含むボランティアや学生の実習等も積極的に受け入れ、幅広い年齢層に親しまれるホームを目指している。また、他事業所との事業など、人との交流の場が多いことから、認知症の方が地域で安心して暮らしていけるよう家族を含めて理解して頂ける様努め、高齢者施設だからと内にこもったり、閉鎖的になる事が決まらず常に意識しながら取り組みをしている。あくまでも出来ない事を問題にするのではなく、出来る可能性を最大限に生かしていく事を大切にして、入居者を中心として常に新しい取り組みを日々実践している。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆうらいふ
(ユニット名)	ゆうひ
所在地 (県・市町村名)	涌谷町
記入者名 (管理者)	佐藤 由美子
記入日	平成 20 年 7 月 8 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目  
 ↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所独自の理念を作り上げるとなると、表現が抽象化し職員をはじめ、入居者にも混乱を招く恐れがあると判断し、自分達のケアを確認しながら実施していく為に、あえて独自の理念は掲げず、理念を細分化し毎月の目標にして具体的に取り組んでいる。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		社協としての機能を活用し、各事業への参加、地区住民との交流、また、見学会(介護講座)の利用、家族からの理解を充分得られるよう季刊誌などを利用し広報に努めている
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の勉強会や研修会等にも関わり、介護保険制度や各サービス形態について出前講座を行ったりして、事業所での実践内容と経験を踏まえながら認知ケアの啓発活動に努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を打合せ時等に報告し、入居者の状態に合わせながら、改善に向けて各ユニットリーダーを中心として具体的に検討している。		全体会議での周知、徹底を図る。評価項目の要改善シートの活用など、カンファレンスなどの機会に話し合いの場を設けている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の最近の様子を含めた近況報告を行うのはもちろんであるが、そのほかに参加メンバーからの要望や意見等についても引き出し双方向的に話し合い、課題が改善出来るよう前向きに検討し取り組んでいる。	○	年間3回くらいの予定で実施していきたいと考えるが、年間を通しての具体的な計画性がないので、今後は計画を立て内容の充実を図りながら実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の中には生活保護を受給している方や、事情があり町からの依頼等で入居している方がいる事もあり、不定期ではあるが時間があいた時には、町の職員等もお茶を飲みながら、様子を見に来てくれたりしている。その際にホームの状況報告も行うなどして連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症の進行や身寄りが無い等の事情がある方について、行政や各関係機関と連携し、成年後見人制度利用を勧めた経緯があり、職員間でも学ぶ良い機会となった。加えて各種研修会等で学び、現在も知識を得る努力をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の中で、入居者の望まないケアは全て虐待にあたるという意識の統一を行っている。実質的な介護技術ケアはもちろんであるが、誘導方法や声掛け等の内面的なケアもひとつ間違えば虐待にあたるという意識を持ち取り組んでいる。		入居者本位に努め、鍵やベット柵の使用についても虐待につながるという認識を持つように努め、ケアが短絡的にならないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり説明し、認知症ケアに対する考え方と取り組み、緊急時医療連携体制の実際と個人情報の取扱いなどについて十分に時間をとり説明し、同意を頂くようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特定の入居者の意見だけが反映されないよう機会を作って話題提供している。具体的には、入浴の時間など日常生活上の意思決定について担当者が把握し本人の思いを優先するようにしたり、また、月に数日のメニューについては利用者の好みを聞き献立に取り入れて、入居者の満足度の向上に努めている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊誌等定期的に家族だけではなく、面会に訪れて頂いた親戚の方等にも郵送するようにしてスタッフ個人の意見ではなくGHゆうひととしての関わりを重視するようにしている。また、受診通院の際にも報告書等を作成し健康状態や生活の様子を報告するようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の向上の為には家族の意見が必要不可欠であるとの視点を大切にし、行事や訪問時等を含め家族に問いかけ、小さな意見でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人組織と年1回全職員の個別面談の機会を設けている他、毎月の打ち合わせ等でも職員の率直な意見を聞くよう心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調及び希望に対応出来るよう、その時々状態に応じた柔軟な勤務調整がとれるように配慮している。また、ケアの質の幅が更に向上出来る事を目指し、全職員が両ユニットの対応が可能になるように現在調整を進めている。	スタッフ全員で入居者18名を見るという姿勢を大切にしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員が継続的にケアしながら、入居者を支える体制を心掛けている。法人内の定期異動がある場合も、2ヶ月余りの引継ぎ期間を設け入居者への影響は必要最小限に留める努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質に応じて段階的に法人内外の研修に参加できる体制をとっている。また、登録職員も必要に応じて研修・会議には参加する機会を確保している。	法人全体で資質向上の委員会が組織化されていることで、年間の研修が計画・立案されている。個々人の能力や性格に合わせて管理者、主任はOJTを実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内で多くのシェアを持つ協議会へ加入し、見学を含めた学習会や職員研修に参加している。他事業所の多角的な意見を取り入れ、経験を活かしながら質の向上を目指している。また、研修会へ参加した職員は必ず復命し、良い取り組み事例はすぐに現場へ還元するように努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員同士の人間関係やストレス要因を把握するように努め、必要であれば勤務を調整し公休を優先する、事業所内での交流会を実施するなど配慮している。また、福利厚生事業など全職員を中心とした事業を実施し、他部署との交流も強めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な健康診断の実施の他、生活習慣改善フォローアップ健診を実施、保健師との個別面談や助言など協力を頂きながら健康増進に努めている。また、資格取得に向けた独自セミナー等の支援と働きかけを行い職場環境を整えている。	生活習慣改善フォローアップ健診(財団法人:社会保険健康事業団による)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際には、必ず本人に会って心身の状態や表情から読み取れる思いを確認し、本人と向き合う事が信頼関係を構築する第一歩だと考え取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何に困り、何が必要なのかゆっくりと時間をかけて聞く事で、信頼関係を築けるように対応している。その上で本人と家族が望むケアについて確認し事業所としてどのような対応が出来るのかを理解して頂く様にしている。	事業所として具体的に示す。あいまいな返答は誤解を招く恐れがある

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人及び家族の思いや状況を確認し、必要に応じて他のサービスの利用調整や提案を行うなど、可能な限り柔軟な対応を行うようにしている。法人内で運営している独自サービスを契約利用してもらいながら顧客満足度の向上に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所を見学して頂くなどして、実際の雰囲気を感じてもらいながら、納得と安心感がある入居につながるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	サービスを提供する側、される側の短絡的な意識を持たないようにした上で、共に支えあいながら生活をしていくという考えを職員が共有し、一人一人が役割活動を通して、主役になれるような場面作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護の専門職としての助言を含め、押し付けにならない程度で入居者の思いを情報提供する事で、家族に余裕が生まれ本来の結びつきが強くなってきている、		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の生活の様子をきめ細かく報告すると同時に、入居者様の自筆での手紙作成をして投函したりと、本人の意思表出が家族に直接伝わるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前と環境が極力変化しないように努め、生け花教室にも参加して頂くといった昔からの生活習慣を尊重している。また協力して頂く方々にも認知症を理解して頂く様に働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	役割活動を通して入居者の同士の支えあいを引き出し、職員が調整役になるように支援しながら注意深く見守るようにしている。皆で行なう各種レクや手先を使う作業を通して一体感が生まれるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者と共にお見舞いに行ったりして関係を断ち切らないように留意している。また、過去に退去された方の家族様の中にはGHの環境が好きと、遊びにきてくれたりしている。気軽にお茶のみに来れる様な環境作りに努め関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の意向を読み取ろうと関わるようにするのはもちろん、認知症により訴え・要望は日々変化している事を伝え、本人を主体として考え何が最良なのか家族を交え話あうようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査時の聞き取りを始め、入居後も本人や家族の言葉に耳を傾けながら、情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝晩の読経など入居前からの習慣を含め、個人個人の生活習慣を尊重し、残存能力を維持していけるような支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人について、職員全員で状態把握が出来るように努めモニタリングやケア会議を行ないながら、その人らしさを引き出す介護計画を念頭に置き、それらに本人・家族の要望を取り入れ反映できるようにしている。		本人の現状を把握する意味でも、毎月モニタリングを実施し担当者を中心に話し合いを実施している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング内容を充実させる事で、本人の変化を敏感に捉える事や気付く事ができ、プラン変更へと移行できている。		家族協力が難しく、ケア内容の状況報告や相談が充分に出来ない事も多々あり、対応に苦慮しているが、毎回のアプローチを大切に継続していきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常生活上での心身的な状態変化、気づきはもちろん、水分・食事量、排泄面など個別に必要な情報も、個別のケア記録に記入している。また、毎日ケアカンファレンスを行ない、全入居者の状態を把握した上で全職員が確認できるようにして情報の共有を徹底している。		個別の小さな変化については毎日のケアカンファレンスと引継ぎノートを利用している。毎日の細かな状況の変化や気づきを記入しながら、全入居者の把握に努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を強化し日常的な健康管理を行い、本人及び家族の負担となる受診・入院の回避を行うよう努めている。また、定期的な通院や受診などの必要な支援もある程度柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が住みなれた地域で安心して暮らしていけるように、地域の民生委員や行政区長、近隣の子供達、ボランティア等にも働きかけ協力を頂きながら支援している。		地域の民生委員、行政区長の出入りは多い。また、以前居住していた地域の民生委員や区長の来訪もある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状況と必要性に応じて、介護保険外サービス(インフォーマルサービス)を利用、または支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の発足により包括支援センター職員が参加する事で連携が更に強化され、情報交換を実施しながら協力体制を構築している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、本人や家族が希望するかかりつけ医を基本的に家族対応で受診している。その際も、文書にて医師へ生活の様子の報告書を提出し、指示を頂きながら情報伝達を蜜にして信頼関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の専門医から本人の状態を詳しく知りたいと家族を通じて連絡があり、一緒に受診し支援した経緯がある。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとりひとりの誇りやプライバシーに配慮しつつ、声掛けや援助について日常的に確認するように取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	感情の意思表示が困難な入居者に対しても時間を多くして関わる事や、複数の選択肢を設けて入居者が自由に選ぶ事ができる環境に配慮している。	毎月数回入居者が食事メニューを決定するリクエストメニューの日を取り入れ、自由に決定出来る環境作りをしている。また、外出を支援する際も馴染みの職員を個別に配置するなど入居者がそれぞれの思いを自由に表せるよう配慮している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の体調、ペースなどを尊重しそれぞれが自己決定した上で主役になれる場面づくりを心掛け柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	まず楽しんで頂く事を前提として、服装はもちろん化粧やマニキュアなど本人の好みを尊重し職員はその出来ない所を必要な時に手伝い支援するようにしている。理美容についても本人のこだわりを大切にしつつ支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った野菜と一緒に採りに行って調理したり、嚥下の面で食べられない食材を食べられるように工夫したりして視覚的にも満足して頂けるように配慮している。また、日々の献立と一緒に相談して考える他、月に数回リクエストメニューを導入し楽しんで食べて頂く事に重点を置いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的に問題が無ければ、本人の望む嗜好品については本人の状態に合わせて提供している。本人の生活リズムを把握した上で、最高のタイミングで味わえるよう時間的な支援にも配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、随時誘導しながら本人のシグナルを見落とさないように心掛けて支援している。また、皮膚トラブルも考慮しオムツを使用している方について、出来る限り外しながらパンツへと移行できるよう援助している。	おむつを止むを得ず使用する場合でも、その方の状態像を見極めた上で、その方に合う1番最適なタイプのオムツを選び使用してもらうようにしている。また、季節に応じて蒸れない様あて方を変えたり使用枚数を調節したりとの配慮も欠かさない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方に対しても十分に時間をかけて関わったり、チームプレイで対応を工夫するなどして、それぞれの入居者の希望を優先しながら安全な入浴支援を実施している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動になるべく幅を持たせて生活リズムを整えた上で、夕方からは穏やかな時間を過ごし安眠が出来るように促している。寝付けない方には一緒に話をしたり、飲み物を提供するなどゆったりとした時間提供にも配慮している。また、開所当時からの方針で眠剤を服用している方も出来る限り減らしていく事を心掛け職員間で統一している。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた仕事や年間の行事を通じて、それぞれの入居者様に得意分野での経験や知識を活かしながら活躍する場面設定を多く設けるようにしてコミュニケーションを図りながら実践している。またそれらを終えた際には必ず感謝の言葉を口に出して言うように心掛け直接伝わる反応を確認し今後活かすようにしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には、家族の理解のもと小額ではあるがお金を所持している方もいる。社会生活とお金のつながりにおいて、過去の記憶を呼び覚ます効果もある為、良い刺激の提供という意味においてトラブルにつながらないよう気をつけながら見守りしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の要望に応じて外気に触れ気分転換を図る意味で、日常的に買い物やドライブなどの個別外出を実施している。時に大勢での外出も良い刺激となり得る為、その時々状態に応じて出掛けている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない所でも近隣であれば可能な限り対応している。ただ旅行や外泊など遠距離に及ぶ場合については家族の協力を頂きながら、事業所はそれをサポートする形で支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重しつつ代筆や電話の交換を行い随時支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の対応はいつでも可能にし、また希望であれば宿泊の要望にも応えられるよう準備している。面会があった際には、本人や家族の希望に応じて、居室や和室などで湯茶を提供しゆったりとした時間を過ごして頂く様に支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部で開催させる身体拘束関係の研修会へ参加することをはじめ、身体拘束はあってはならない事だと全職員が認識できている。		施設全体で身体拘束廃止ガイドラインを作成し定めている。また、毎月の会議などで確認するよう努めている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	厳密に言えば鍵をかける事自体が身体拘束になるという事や鍵をかける事で入居者自身に及ぶ弊害を全職員が認識しており、ロックよりも本人の思いに沿ったケアを優先するようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は他の作業をしている時でも、さりげなく入居者の状況を把握するように努め、過度に監視しすぎないように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時々の入居者の状態に合わせ、入居者の気持ちに沿って考え、職員で共に考えながら最良の方法を導くようにしている。危険物品や危険が予想される物品なども収納に工夫するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人独自のヒヤリハット様式を用いて記録する事で職員間で共有する事を前提として、必要に応じて法人上層部にも回覧し、日々の危機管理を強めている。1月後に再度評価する事を導入し、同様の危険が起きないように安全に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を頂くなどして定期的に研修会を実施し救命救急法の技術向上に努めている。		2年に1回 普通救命の講習更新 実績:全職員済み
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回災害を想定した実践的な訓練を実施している。また、地域にも運営推進会議などで広く協力を頂ける様に働きかけている。		防災グッズ、非常食の準備完了。夜間想定訓練実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活上で起こりうる事故や予測されるリスクについて、随時家族へ説明すると共に、加えて自由にゆったりと生活して頂く事を前提とした事業所の方針と取り組みについて理解を得られるように努めている。		介護計画を説明する際など、本人の現在の状態をご家族に正確に伝わるよう配慮している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を実施すると共に、個々の普段の体調、食欲、様子などの些細な変化を気をつけて記録・観察するようにしている。また、それらを発見した際には職員間で情報共有し、早期対応を可能にしている。結果も必ず家族へ連絡し、家族にも安心感を提供できる配慮をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に整理し、内服の内容や副作用について職員が把握できるようにしている。追加薬があった時や不明な点はそのままにせず必ず看護師と相談する等して本人の状態変化にあわせた対応が出来るようにして連携を強めている。		管理・準備は担当性にした上で、事前に家族へ連絡し本人の状態を説明した上で薬の手配や受診を依頼するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日乳製品や繊維質の多い食材を取り入れたり、体を動かす機会を適度に設けるなどして便秘の予防に取り組み、あくまでも自然排便ができる環境を目指している。職員間ではすぐに薬を使用したりするなど短絡的な方法をとらないよう意識の統一を図り、本人のサインを注意深く見守っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、困難な方には本人が持っている残存能力を活用しながら支援を行っている。また、法人で歯科医院と契約し定期健診を実施するなどして口腔内の生活保持に向けて取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分量を記録につけ把握する事はもちろん、写真を記録するなどして職員間で情報を共有している。毎月のメニューも定期的に管理栄養士に確認して頂き専門的な見地からアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の事業所と協働して感染症委員会を立ち上げ、その季節に多く起こりうる食中毒や感染症について随時研修会などを実施している。また、細やかなマニュアルを作成、定期的に見直し更新するなど予防を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の清掃を含め定期的に漂白し清潔を心掛けている。食材についても1日置きに契約業者が配達してもらっているが、生鮮食品などについては必ず入居者と共に買い物に行くようにして買いだめをしないようにしている。食材の保管方法や器具の清掃状況等も定期的に管理栄養士に確認してもらい問題がないよう配慮している。		予防に観点を置いた研修会を実施済み。管理栄養士のぬきうち監査
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	定期的に入居者様に花を活けてもらったり、玄関先やアプローチにプランターを置いたりして明るい雰囲気と季節感を心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が居心地よく過ごせるように季節に応じた飾り付けを入居者と共に作成している。視覚をはじめ五感などの感覚的にも適度な刺激と生活感を組み込みながら日常的に暮らしの場を整えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの中にある程度死角になるちょっとしたスペースを設け、独りになることでほっとするような居心地の良い居場所を確保している。その際に職員が必要以上に介入しすぎないように気をつけ、入居者のストレスの緩和に配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	移り住みなど環境の変化による不安や影響を最小限に抑えるため、入居時は特に馴染みの物を持参して頂くように本人や家族に働きかけている。家具の配置にも気を配り住み慣れた自宅の部屋の縮図に近づくように心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室共にこまめに空気の入替えをして悪臭と感染症の防止に努めている。空調の温度管理については、個々の入居者の状態を見守りながら調節している。		冬期間においては、温度、湿度共に標準値を維持できるよう各居室に温湿度計を配置して随時確認し、入居者の体調管理に努めている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間において転倒の危険性を予測し必要であれば改善して取り組んでいる。その際に、殺風景になりすぎたり行動の抑制につながらないよう、本人の活動を重視しながらバランスを考えて実践している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できない事を見極め、対象の入居者について職員間で何度も検討し、可能な限り出来る状態に引き戻せるよう取り組んでいる。本人の混乱や失敗を考慮しつつ、まずやってみる気持ちを大切にしている。		出来ない事を問題として取り上げるのではなく、出来る事を前向きに見極め、限りなく維持していけるよう努める事が認知症ケアにあると全職員に徹底している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者が自由に出入りして花を眺めたり、草取りをしたり、畑を見に行ったりと自分で決定し選び、行動できる環境を大切にしている。要所に休憩スペースを作りつつ、見守りが過度になりすぎないように気をつけている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者福祉複合施設という特性と地域性もあり、民生委員や行政区長をはじめ、一般客の出入りがとても多く、単独のグループホームよりもその点が大変恵まれている。それらの利点を多いに活用し日々のケアに取り入れる事を意識しながら、子供達を含むボランティアや学生の実習等も積極的に受け入れ、幅広い年齢層に親しまれるホームを目指している。また、他事業所との事業など、人との交流の場が多いことから、認知症の方が地域で安心して暮らしていけるよう家族を含めて理解して頂ける様努め、高齢者施設だからと内にこもったり、閉鎖的になる事が決まらずに常に意識しながら取り組みをしている。あくまでも出来ない事を問題にするのではなく、出来る可能性を最大限に生かしていく事を大切にして、入居者を中心として常に新しい取り組みを日々実践している。